

長期戦略:テーマ 「SDGs の推進」

提出日 2022年8月24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	企画担当理事・学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	----------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
8-(12)-③ SDGs の推進(研究分野)	2019 年度	2024 年度	必要なし	不要
内容				
<p>1. 研究分野における SDGs 関連情報の収集と PR</p> <p>研究活動はその目的や成果の多くが、SDGs で示されている 17 の目標に適合する可能性がある。研究推進社会連携機構は、すでに運用している「研究者データベース」を改修し、その情報を収集することを技術的に可能とする。具体的には以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「研究者基礎データ」の「研究者略歴」内の「専門分野」の後に「SDGs (持続可能な開発目標) 選択」メニューを追加。研究者が自身の専門分野や関心領域に基づき、関連する(あるいは近いと思われる)SDGsテーマ(目標)を選択できるようにする。また利用者がSDGsテーマ別で検索可能とする。 選択方式はチェックボックス方式。 17の目標に関する説明文(PDFデータ)をページ内に配置、もしくはリンクの配置。 17の目標の登録状況を、アウトプット可能とする(xlsxやcsv)。 HPの基本情報の「プロフィール」の下にSDGsの登録テーマを表示する。 <p>総合企画部は以上の状況を大学評議会・学部長会等で周知し積極的な入力呼びかけること、収集データ数の増加を促進する。加えて、総合企画部は収集したデータを分析・加工し「関西学院大学SDGsポータルサイト(仮称)」に掲載することで、SDGsにおける本学の研究活動の特性やボリュームを紹介し、広く社会にアピールする。</p> <p>2. 各種イベントを通じた本学の SDGs に関する取り組みの PR</p> <p>研究推進社会連携機構が企画・参加する各種イベントにおいて SDGs に関する取り組みを PR する。具体的には以下の通り。</p> <p>【知財産学連携センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「イノベーションジャパン」「国際フロンティア産業メッセ」等の産学連携イベントで SDGs の 17 の目標と展示シーズを紐づけて紹介する。 <p>【社会連携センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs の 17 の目標からテーマが設定されるソーシャルビジネスアイデアコンテスト「HULT PRIZE」をはじめ、アントレプレナー育成プログラムの実施にあたり、社会課題解決を目的としたプログラムを実施し、学生に SDGs を考える機会を提供する。 「KG ビジネスプランコンテスト」のコンセプトを「社会課題を解決するためのビジネスプランコンテスト」とし、SDGs の諸課題に関連するプランを募集する(大学部 				

門・高校部門・中学校部門)(2019年度にてプログラム終了のため、上記のアントレプレナー育成プログラムに統合)。		
【研究所担当】		
・ 手話言語研究センターの活動においてSDGsの17の目標に紐づけた手話学コロキウム、講話会、ミニ講座等イベントを開催する。		
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	研究者データベースの改修・運用	研究者データベースにおいてSDGsの17の目標を選択・登録することが可能となり、当該データをアウトプットする仕組みを構築することができたかどうか
指標2	研究者データベースへの情報登録促進に向けた取り組みの回数	研究者データベースへのSDGs関連情報の登録を促進するための取り組みの回数
指標3	研究者データベースに情報を登録した研究者の割合	研究者データベース登録有資格者のうち、SDGs関連情報を登録した研究者の割合
指標4	SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・来訪者数(知財産学連携)	産学連携イベント(イノベーションジャパン、国際フロンティア産業メッセ、他)への出展とブース来訪者数
指標5		※指標4へ統合
指標6	SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・応募数(社会連携)	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)の開催(2回以上)と参加学生数
指標7	同上	社会連携イベント(KGビジネスプランコンテスト)の開催と大学部門応募プラン数 ※指標6に統合
指標8	SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・参加者数(研究所)	手話学コロキウム、講話会、ミニ講座等のイベントの開催と参加者数

指標6へ統合

目標1<指標1>研究者データベースの改修・運用

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	研究者データベース改修	改修後の不具合チェック 安定運用	改修後の不具合チェック 安定運用	改修後の不具合チェック 安定運用	安定運用 システム改善検討	安定運用 システム改善検討・実施
実績	研究者データベースにおいてSDGsの17の目標を選択・登録することが可能となり、当該データをアウトプットする仕組みを構築できた。	改修後の不具合も無く、安定運用できた。	改修後の不具合も無く、安定運用できた。			

目標2<指標2>研究者データベースへの情報登録促進に向けた取り組みの回数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	2回 学内会議での周知回数	2回 学内会議での周知回数	2回 学内会議での周知回数	2回 学内会議での周知回数	2回 学内会議での周知回数 (※以後、ルーティン化のうえ、モニタリング指標に変更)	同左
実績	2回(第5回、第10回学部長会) 別途、個別に教員宛登録依頼を通知している。	1回(第3回学部長会) 別途、個別に教員宛登録依頼を通知している。	1回(第3回学部長会) 別途、個別に教員宛登録依頼を通知している。			

目標3<指標3>研究者データベースに情報を登録した研究者の割合

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	10%	20%	30%	50%	60%	70%
実績	研究者DB登録全教員数:791名 SDGs登録教員数:109名 割合:13.8%	研究者DB登録全教員数:772名 SDGs登録教員数:153名 割合:19.8%	研究者DB登録全教員数:809名 SDGs登録教員数:212名 割合:26.2%			

目標4<指標4> SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・来訪者数(知財産学連携)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	イノベーションジャパンに出展し、80名のブース来訪を得る	イノベーションジャパンに出展し、80名のブース来訪を得る	イノベーションジャパン、国際フロンティア産業メッセ、他に出展し、計100名のブース来訪を得る	イノベーションジャパン、国際フロンティア産業メッセ、他に出展し、計100名のブース来訪を得る	イノベーションジャパン、国際フロンティア産業メッセ、他に出展し、計100名のブース来訪を得る	イノベーションジャパン、国際フロンティア産業メッセ、他に出展し、計100名のブース来訪を得る
実績	イノベーションジャパンに出展(理工・藤原明比古教授)し、ブース来場者は270名。	イノベーションジャパンがweb開催となった。理工・岡留先生のサイトに131件のアクセスがあった。	イノベーションジャパン:527件のアクセス 国際フロンティア産業メッセ:31名のアクセス			

目標5<指標5> SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・来場者数(知財産学連携) ※指標4へ統合

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	国際フロンティア産業メッセに出展し、20名のブース来訪を得る	国際フロンティア産業メッセに出展し、20名のブース来訪を得る				
実績	国際フロンティア産業メッセに出展(理工・藤原明比古教授)し、ブース来場者は100名。	国際フロンティア産業メッセに出展(産学連携活動の紹介)し、ブース来場者は24名。				

目標6<指標6> SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・応募数(社会連携)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	社会連携イベント(HULT PRISE)を開催し、15チーム以上の応募を得る	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)を2回以上開催し、50名以上の学生参加を得る	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)を2回以上開催し、50名以上の学生参加を得る	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)を2回以上開催し、100名以上の学生参加を得る	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)を2回以上開催し、100名以上の学生参加を得る	社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)を2回以上開催し、100名以上の学生参加を得る
実績	社会連携イベント(HULT PRISE)を開催し、応募チームは6チーム(出場3チーム)。	2回(SDGs Ideathon 2020、企業×起業トークセッション)、195名参加	2回(ワークショップ『KG STARTUP DAYS』、トークセッション『起就転結』)、101名参加			

目標7<指標7> SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・応募数(社会連携) ※指標6へ統合

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	社会連携イベント(KGビジネスプランコンテスト)を開催し、大学部門30プラン以上の応募を得る					
実績	「社会課題を解決するためのビジネスプランを募集するコンテスト」として、SDGs「世界を変えるための17の目標」から選択して応募する仕組みとした。8学部・研究科から60プランの応募があった。	目標6<指標6>に統合	目標6<指標6>に統合	目標6<指標6>に統合		

目標8<指標8> SDGsに関するイベント等を企画・参加した回数・参加者数(研究所)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	手話言語研究センター講話会を年2回開催し、各回50名の参加者を得る。	手話学コロキアムを年1回開催し、50名の参加者を得る。	手話学コロキアムを年1回開催し、50名の参加者を得る。	手話学コロキアム、講話会、ミニ講座等のイベントを開催し、計100名以上の参加者を得る。	手話学コロキアム、講話会、ミニ講座等のイベントを開催し、計100名以上の参加者を得る。	未定
実績	年2回開催。参加者は次のとおり。 関西)11月16日実施の参加者42名 関東)12月1日実施の参加者50名	1回、オンラインにて開催。参加者は以下のとおり。 第1部(講演):61名 第2部(ワークショップ):18名	4回オンライン開催。1回目は誰でも参加できる講演を、2回目以降は定員を20名に絞った講義・ワークショップを実施。 (第1回)151名 (第2回)17名 (第3回)19名 (第4回)15名			

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
研究者データベースの改修	策定段階	研究者データベースの改修	改修後の不具合チェック安定運用	改修後の不具合チェック安定運用	改修後の不具合チェック安定運用	改修後の不具合チェック安定運用
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	改修後の不具合チェック安定運用				
	2023年3月末段階	—				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
研究者データベースの登録促進および、収集情報のポータルサイト掲載	策定段階	—	ポータルサイトへの掲載および登録促進作業	ポータルサイトへの掲載および登録促進作業	ポータルサイトへの掲載および登録促進作業	ポータルサイトへの掲載および登録促進作業
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	ポータルサイトへの掲載および登録促進作業				
	2023年3月末段階	—				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
各種イベントの実施と内容の精査	策定段階	各種イベントの実施	各種イベントのSDGsとの関連精査、実施	各種イベントのSDGsとの関連精査、実施	各種イベントのSDGsとの関連精査、実施	各種イベントのSDGsとの関連精査、実施
	2023年3月末段階	—	目標7は目標6に統合。目標8は「手話学コロキアムの開催」に変更。	目標5は目標4に統合。目標7は目標6に統合。目標8は「手話学コロキアムの開催」に変更。	目標5は目標4に統合。目標7は目標6に統合。目標8は「手話学コロキアム、講話会、ミニ講座等のイベント」に変更。	目標5は目標4に統合。目標7は目標6に統合。目標8は「手話学コロキアム、講話会、ミニ講座等のイベント」に変更。
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	各種イベントのSDGsとの関連精査、実施				

	2023年3 月末段階	目標5は目標4に統合。 目標7は目標6に統合。				
--	----------------	----------------------------	--	--	--	--

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	<p>(研究支援)「研究者データベース」の改修については当初計画どおり完了。これにより、研究者による目標の登録、目標からの研究者検索、データのアウトプットが可能となった。</p> <p>(知財産学連携) イベントにて SDGs(目標 7)に関連する理工・藤原明比古教授の研究シーズを紹介し、ブース来訪者に取り組みの周知が図れた。また、理工系研究シーズ集の各項目に SDGs のゴールとの関連を示す情報を追加した。</p> <p>(社会連携)「KG ビジネスプランコンテスト」では応募プラン数が前年度の約 1.4 倍になっており、学生に SDGs を考えるきっかけを提供できた。</p> <p>(研究所) 講話会の開催で、一般および手話利用者への手話言語に対する理解を深め、併せて手話言語の使用、教育、研究の振興を図るための啓発普及で SDGs を考えるきっかけを提供できた。</p>
2020 年度	<p>(研究支援) システム改修後は不具合も無く、安定運用できた。また情報登録した研究者の割合もほぼ目標どおり(実績:19.8%、目標20.0%)推移している。</p> <p>(知財産学連携) 新型コロナウイルス感染症の影響で、産学連携イベントが軒並み web 展示もしくは規模縮小の中での開催となった。数値目標はほぼ達成できたが、web 展示に関してはリアル展示との単純比較が難しい。</p> <p>(社会連携)「SDGs Ideathon 2020」では SDGs ゴール 3:「Good Health and Well-Being」、「企業×起業 トークセッション」では SDGs ゴール 8:「働きがいも経済成長も」をテーマに開催し、学生に SDGs を考えるきっかけを提供できた。</p> <p>(研究所) 手話学コロキウムは、これまでと異なるオンラインでの実施であったが、昨年度同様に一般および手話利用者の参加が得られ、手話言語に対する理解を深め、手話言語の使用、教育の振興を図るための啓発ができた。またその後半のワークショップによって手話言語学の研究についての関心を高めることができ、全体を通して各参加者が SDGs のゴールに近づいていくための活動ができた。</p>
2021 年度	<p>(研究支援) システムは不具合も無く、安定運用できた。一方、情報登録した研究者の割合は、目標30%に対し26.2%とやや未達となり、情報登録の周知等に課題が残ることとなった。</p> <p>(知財産学連携) イノベーションジャパンについては工学部・長田典子教授のシーズに対し 500 件を超えるアクセスがあり盛況であった。国際フロンティア産業メッセに関しては例年通りの状況。</p> <p>(社会連携) ワークショップ『KG STARTUP DAYS』では日常生活に潜む課題を解決するビジネスプランを検討することで SDGs 全般を扱い、またトークセッション『起就転結』では、起業した女性をゲストに招くことにより、SDGs ゴール 5:「ジェンダー平等の実現」を認識できる機会となった。</p> <p>(研究所) オンライン開催にしたことで、全国各地から目標をはるかに超える人数の参加があり、参加者の層も広がり幅広い議論ができた。ワークショップをオンラインで開催するにあたっては手話が見えやすい画面環境を提供する必要から参加人数を制限せざるを得ないなど、SDGs の目標に近づくために必要な配慮について、スタッフに気づきを与える機会となった。</p>
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	2019 年度より新たに設定した実施計画であり、今後の課題および方向性は今年度の取り組みを踏まえて整理する。
2020 年度	<p>(研究支援) ベースとなる「研究者データベース」の改修は計画どおり完了。2020 年度はシステムの安定運用をチェックしつつ、目標登録者の増加のための研究者への周知方法およびポータルサイトへの掲載について検討していく。</p> <p>(知財産学連携) 2020 年度のイノベーションジャパンは、新型コロナの影響でイベント開催が見送りととなり、Web 特設サイトでの展示となる旨、連絡があった。これらを踏まえ、今後イベント会場での SDGs 関連のブース展示等にも工夫が必要であり、周知方法等を検討していく。</p> <p>(社会連携) 社会連携イベント(アントレプレナー育成プログラム)の再編により、目標7は目標6に統合し、具体的なプログラムを指定せず、できるだけ多くの機会を提供することを目指す。</p> <p>(研究所) 手話言語研究センターの 2020 年度事業計画で、講話会の実施は見送ったため、目標8を手話学コロキウムに変更する。但し、新型コロナの影響で不開催の場合あり。</p>
2021 年度	<p>(研究支援) システム改修後の運用については、特に不具合も無く安定的に運用できている。今後は、情報登録者数の増加に向けた周知およびより使い勝手の良いシステムへの改善検討に取り組む。</p> <p>(知財産学連携) 新型コロナウイルス感染症の影響でイノベーションジャパンは web 展示となった。リアル展示との単純比較が難しい状況。web ならではの特性抽出およびそれへの対応が急務となる。また、国際フロンティア産業メッセに関しては引き続きブース出展を行っているが、来場者の減少に伴いこちらのポストコロナという変化への対応検討が必要となっている。こうした状況を受け、指標 5 を指標 4 に統合し、イベントでのブース出展・web 展示出展については具体的なプログラムを指定せず総合的に検討し、できるだけ多くの機会を効果的に提供することを目指す。</p> <p>(社会連携) 引き続き SDGs をテーマにしたイベントを開催し、社会課題の解決を目指す起業人材の育成に取り組む。</p> <p>(研究所) 2020 年度に引き続き、手話学コロキウムをオンラインで開催する。さらに手話学の研究に関心を抱いていただくための内容とする予定。</p>
2022 年度	<p>(研究支援) システム運用については、特に不具合も無く安定している。引き続き、情報登録者数の増加に向けた周知およびシステムの改善検討に取り組む。</p> <p>(知財産学連携) 研究成果展示に関しては web 形態での開催が一般化してきた。出展するシーズに関しては、動画や画像等、提供する具体的なコンテンツの重要性が高まっている。テキストパネルで対応可能であった対面の展示会とは異なり、そうしたデジタルコンテンツを作成するコストを見込んでいく必要が生じている。出展イベントの選定に関しては社会情勢を踏まえつつ引き続き検討を行う。</p> <p>(社会連携) 社会課題の解決のために起業を目指す学生は多い。引き続き SDGs のテーマに関連付けたイベントを企画・実施する。</p> <p>(研究所) 手話学コロキウムについては手話の研究者を育成するためのプログラムであることから参加対象者を限定することとした。今年度は手話学コロキウムを 3 回、講話会を 1 回、ミニ講座を 1 回開催する。いずれのイベントも対面を原則とし、より密なコミュニケーションを取りながらの開催を目指す。</p>
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> 研究者データベースにおいて、SDGs17 ゴール別に検索を可能とする改修を行うとともに、各教員が登録することで、外部への積極的な情報公開を行った。 本学の SDGs 取組み告知やゴール別研究者等を紹介可能なイベントがコロナによって中止された。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> KSC における「サステナブルエネルギーの一大研究拠点の構築」の推進 研究者 DB や研究活動情報発信サイトの活用に向けた方策の検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	